

私鉄車両めぐり 第6分冊

鉄道ピクトリアル 1965年7月号・臨時増刊 通巻第173号

表紙 下津井にて……………高松吉太郎

グラフ

港都を後に(神戸電鉄)……………	3
尺別鉄道・羽後交通……………	4
茨城交通鉄道線……………	6
伊豆箱根鉄道鉄道線……………	8
西濃鉄道……………	10
神戸電気鉄道……………	99
下津井電鉄……………	100
広島電鉄宮島線……………	102
鹿児島交通・南薩鉄道……………	104

記事

①尺別鉄道……………	小熊 米雄…11
②羽後交通……………	金沢 二郎…20
③茨城交通湊線・茨城線……………	白土 貞夫…30
④伊豆箱根鉄道・鉄道線……………	吉川 文夫…43
⑤西濃鉄道……………	白井 良和…53
⑥神戸電気鉄道……………	藤井 信夫…59
神戸有馬電気鉄道の展望車について山崎 寛一…67	
⑦下津井電鉄……………	青木 栄一…68
⑧広島電鉄・宮島線……………	窪田 正実…76
⑨鹿児島交通・南薩鉄道……………	谷口 良忠…83

私鉄車両めぐり第6分冊掲載私鉄分布図

「私鉄車両をめぐり」〈第6分冊〉発行にあたって

私鉄車両めぐり別冊の刊行もとうとう6回を数えるに至った。正直のところこんなに回を重ねようとは思っていなかった。これも現代の私鉄研究熱の高さと多くの研究者の長期に亘る準備と調査のたまものといっただらう。

第1分冊から第6分冊までに収録された私鉄線区の数には70に及び、今では日本の現存あるいは最近まで存在した私鉄の大部分は鉄道ピクトリアル誌の本誌または別冊のいずれかの「私鉄車両めぐり」によって紹介されてしまったことになる。「知られざる私鉄」などというものが、日本から消えてしまうということは数年前までは想像もつかなかったことである。

回を重ねるごとに内容が詳しくなってきたことは一目瞭然である。第1分冊では最長のものでも6ページ、短いものは何と2ページにすぎなかった。本号では最短のものでも6ページはある。増ページの原因は主として沿革や車歴、あるいは過去の車両の部分が多くなったからである。明らかに車両変遷史の傾向をとりつつあるといえよう。その場合単なる事実の羅列ではなく、日本全体の経済史とか技術史といったように、筆者の視点がさまざまな角度で明確に示されるようになったことは大きな進歩といえるであろう。

「私鉄車両めぐり」は特定の筆者に依存する率も極めて高かったが、同時に多数の新しい研究者に発表の場を提供してきた。しかし新しい執筆者の出現率はまだ十分とはいえない。特に最近は大学生程度の若い執筆者はほとんど現れない。大学における鉄道研究会が今日ほど活発な活動をしている時はないと思われるのに、執筆者の出現率はこれと反比例するかのような低調さである。市の狭い執筆者層の原因は一体どこにあるのだろうか。

私鉄車両めぐりの問題点はこの他にもまだつきない。しかし、今後ますます多くの方々の支援を得て、このシリーズを続けてゆきたいと願っている。

本分冊の内容検討には例によって中川浩一・青木栄一両氏に、また、グラフ編集割付には高松吉太郎氏に、路線図は一二を除いて青木栄一氏にお世話になった。

〔表紙〕「下津井にて」 高松 吉太郎
下津井電鉄クハ24+モハ103 下津井駅 38.11.22
ミノルタオート ロツコール75mm 絞り5.6 1/400 ネオパンSS

〔3頁〕「港都を後に」 高木 昭
〈第9回鉄道写真コンクール作品〉
神戸電鉄 314+313 神戸市長田付近 38.7.7
ペンタックス-SV タクマー-F1.8 55mm 絞り8 1/250 YG フジSS